

第21回下水道フェスティバル

10月13日、「坂下中央浄化センター」において「第21回下水道フェスティバル」を開催しました。

当日は、あいにくの強風となりましたが、多くの方々にご来場いただきました。

下水道フェスティバルは、下水道の普及啓蒙を図るため、平成5年から毎年開催され、今年で21回目を数えます。

ばんげぼんげ音楽アーティスト協議会のご協力による「ミニコンサート」をはじめ、「焼きそば」、「味噌田楽」、「金魚すくい」、「ふうせん」等の模擬店や、「微生物観察コーナー」、「施設見学」等、さまざまな催しを通して、下水道への理解を深めていただきました。



ミニコンサートのひとこま

また、会場では、町内の小学生を対象に実施した「下水道標語コンクール」の表彰式が実施され、入賞した児童へ賞状が手渡されました。

下水道標語コンクール入賞作品
▽最優秀賞

「下水道 自然や街を守る道」
坂下南小学校 4年2組
佐藤 緋奈乃さん

▽優秀賞
「ぼくたちの

みらいにつながる 下水道」
坂下南小学校 4年3組

城郷 奈雄子さん

▽優秀賞

「ありがとう
かんきょうを守る 下水道」
坂下東小学校 4年1組

皆川 大樹さん

▽入賞

「うつくしい 川をはぐくむ
下水道」
坂下南小学校 4年3組

佐藤 七海さん

「かいてきな くらしを守る
下水道」
坂下南小学校 4年2組

河原田 みなみさん

「下水道 明日につながる
すんだ水」
坂下東小学校 4年2組

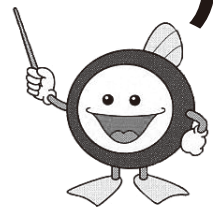
石田 愛莉さん

「下水道 きれいな水で
ゆたかな未来」
坂下南小学校 4年2組

酒井 美怜さん

「キラキラと きれいな水に
リサイクル」
坂下東小学校 4年2組

五十嵐 智さん



下水道マスコット
キャラクター「スイスイ」

★入賞おめでとうございます★



今月号の「道の駅インタビューコーナー」は、湯川村は消防団長の佐藤誠さん、会津坂下町は消防副団長の山内真一さんから話を聞きました。地域の防災を担う消防団から、防災拠点としての人・川・道の駅に対するご意見を頂戴しました。



佐藤誠さん

○人・川・道の駅は阿賀川沿いに建設予定ですが、過去に阿賀川が氾濫したことはありますか？また、湯川村は平坦部ということと、水害の不安はありませんか？

佐藤…大正6年10月1日に、旧勝常村^{（現湯川村）}川洪水防止作業中に消防団員1名の方が殉職されました。阿賀川は、昭和16年、24年に上流の会津若松市の神指地域などで堤防が決壊する氾濫があったようです。近年は、堤防の拡幅工事が行われているなど、水防対策がよくなされていると認識しています。人の駅として水防センターが整備されますので、水防センターを拠点として行政と連携し、消防団としてもなお一層の水防・防災に努めていきたいと思えます。

○2年前の東日本大震災の時、消防団ではどのような活動をされましたか？

佐藤…大震災では、村内の建物の損壊、塀の倒壊などの被害が見られました。混乱する状況の中、消防団員に地区内のホームタンスの倒壊による油流出事故の有無の確認について指示しました。団員は迅速に調査を行ってくれて、火災の発生はありませんでした。

○このたび整備する「人・川・道の駅」拠点整備事業では、「交流促進施設（水防センター）」、「防災ステーション」、「消防訓練広場」などの防災施設が整備予定であり、地元消防団に有効に活用したいと考えています。主にどのような

活動、訓練が可能だと考えていますか？

佐藤…整備される施設を有効に活用させていただきます。消防訓練広場では水防訓練、消防ポンプ操法、消防ポンプ性能検査など各種訓練を重ねていきたいと思えます。ポンプ操法の訓練については、これまで水出し操法の訓練の場所がありませんでしたが、これからは大いに利用したいと思えます。夢は全国大会出場です！水防センターが整備されれば、消防団の災害対策会議室、待機所として活用でき、迅速な消防団活動の拠点として機能していくものと期待しております。新しく整備する水害対策備品については、村と消防団で検討を進めております。

○ここからは利用者の立場で御答えください。これまで立ち寄った道の駅のどこ、反対に悪いところがあれば教えてください。

佐藤…従業員が笑顔で、元気な道の駅は、地域の元気を感ずるいいですね。入口が入りづらい道の駅は、敬遠してしまします。案内板はあるけれど、道路沿いじゃなくて曲がったりしない場所がわからない道の駅は不便に感じます。

○最後に、道の駅ですが、どんな施設になってほしいですか？

佐藤…地元の人がお昼を食べに利用したり気軽に立ち寄り、地域交流の中心地であり、従業員みんなが笑顔で明るく、お客さんとも笑顔になるような、湯川村・会津坂下町地域の元気を発信する道の駅になってほしいです。私自身いろいろアイデアが浮かんできていますが、若い人のアイデアも積極的に取り入れ、ここでしか購入できない特産物の販売や、各種イベントを開催するなどでリピーターを作り、人が集まる道の駅になるよう願っています。関係者の皆さん、有言実行で頑張ってください！



山内真一さん

○近年、温暖化の影響からか、全国各地でゲリラ豪雨、竜巻、突風等の局地的な災害が増えています。会津坂下町では、それに似たような災害はありましたか？

山内…平成23年の東日本大震災と新潟・福島豪雨のときは大変でした。豪雨の際は只見川流域の地区が土砂崩れや冠水により、甚大な被害を受けました。人的な被害はありませんが、収穫前の農作物の冠水や建物の浸水などの大きな被害を受けました。

○東日本大震災のときは、消防団ではどのような活動をされましたか？

山内…東日本大震災では、建物の倒壊や道路の損壊が見られました。当初は被害調査等を実施しましたが、福島原発の事故で対応が一変しました。葛尾村の村民約300名を受け入れる準備として、町民の協力を得ながら町内で毛布や布団、タオル等の物資を確保しました。

○このたび整備する人・川・道の駅拠点整備事業では、水防センター等

の防災施設が整備予定です。地元消防団はどのような活動・訓練が可能だと考えていますか？

山内…防災の拠点として、水防訓練や消防ポンプ操法ができる機能が整っているのは、団員の技術向上のために素晴らしいことだと思います。また、消防団活動が連日にわたる場合を想定すると、仮眠ができるような施設があることは、団員の体力回復や士気の維持に役立つと思えます。○話は変わりますが、これまで立ち寄った道の駅の良いところがあれば教えてください。

山内…地元の良い温かいおもてなしや、駐車スペースが十分に確保された人々がやさしい施設は立ち寄っても気持ちがいいです。軒下が広くて、そこでイベントや出店ができる施設はいいと思えます。

○最後に「道の駅」ですが、どんな施設になってほしいですか？

山内…会津坂下町・湯川村の特色を生かしながら、地元の農産物や特産品を十分に揃えた、地元で愛される施設になってほしいです。今あるものを大切にしながら、新しい発想でどんどん価値を生み出してほしいので、若い人にも積極的にかわっていただき、盛り上げてほしいと思えます。メディアの活用、集客のために工夫を凝らしたイベントにより、道の駅だけでなく、地域への人の流れを作ってほしいです。会津坂下町民としては、そば、馬刺し、クルミなど食をPRしてほしいですね。

「縄文から弥生へ」

「会津坂下町郷土学習副読本」

坂下学のすすめ」から

弥生人の風習

日本列島の様子を文字で知ることが出来るのは、一世紀頃からです。日本の弥生時代に当たります。中国の歴史書である『魏志倭人伝』（以下、『倭人伝』）は、三世紀頃の弥生時代後期の様子を伝えています。

この頃の日本は、「王」の下で幾つもの「クニ」の連合体を形成し、中国王朝と使者を取り交わしていました。それらの「クニ」の人々は顔や体に入れ墨をしていたとあります。このことから、入れ墨の風習が弥生時代にあったことがわかります。『倭人伝』は、「入れ墨は海で鮫などに襲われない呪いの意味があり、地域ごとに、また身分ごとに違っていた」と書いています。

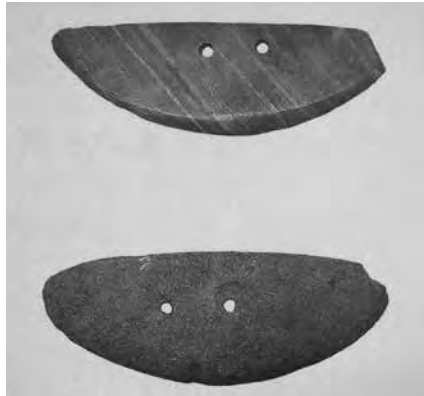
この「クニ」は、稲作の外、鮫などがある海で漁労ができる九州・近畿地方にあったのでしょうか。稲作は中国・朝鮮からの渡来人が伝えたと言われています。彼らは、食料として粃の状態を持って来たのでしょうか。その偶然が、日本列島に新たな食文化を生んだのだと推測されます。

稲作

では、会津地方の弥生時代はどうだったのでしょうか。中国の歴史書ではそこまでは触れていません。教科書によると、弥生時代は紀元前五世紀から紀元三世紀



石包丁の使い方



石包丁



つぼ型土器

の約八百年間を指します。会津地方に稲作が始まったのは、紀元前四世紀頃と推定されています。その頃の時期と見られる上野尻遺跡（西会津町）から出土した大型のつぼ形土器を根拠にしています。粃などの貯蔵用と考えられるからです。また、大麦の種子も見つかっています。

当時の田んぼ一枚の面積は、台畑遺跡（福島市）では、約二平方メートルから十一平方メートル位でした。米はおかゆにして食べたと思われれます。米を炊く様な土器が発見されていないからです。『倭人伝』では手づかみで食事をすると書いていますが、おかゆを手づかみというは合理的ではなく、竹べらの様なものを使っていたとも考えられます。

ところで、『倭人伝』では、人々ははだして生活していると書いています。寒さの厳しい会津地方では動物の毛皮などで足を包んで歩くこともあったでしょう。稲の収穫には、石包丁で穂だけを摘み取っており、茎の部分は田んぼに残したままだったのでしょうか。ワラにして靴のようなものを作っていた可能性はあります。既に、織機でカラムシなどから布を織り、簡単な服を作っていた時代です。また、縄文時代から人々は遠くまで交易をし、その先々で様々な生活風習を見聞していたと思われれます。ワラで縄や生活用具を作っていたのではないかと思えてくるのです。

弥生時代の貝塚から

会津地方には全国的にも珍しい淡水産の貝塚遺跡が三箇所あります。宮腰遺跡

（会津若松市河東町）、上高野遺跡（会津若松市高野町）、沼ノ神遺跡（喜多方市）です。貝塚ができるほど大量の貝の生息地は、川や沼地が考えられます。

会津盆地は大小様々な河川が合流し、洪水の発生しやすい地形をしています。弥生時代の八百年間には、度重なる洪水や地震による土砂崩れで川がせき溜められて湖沼ができ、そこに大量の魚介類が生息した時もあったでしょう。

会津盆地のクニ

会津盆地の地形から引き起こされる自然災害と、そこに住む弥生人の精神構造の関係は想像するしかありません。その一つとして、集落間の協調・互助などが想定されます。

稲作は低湿地と水の管理を必要とします。稲荷塚遺跡（新富町）で見られた「方形周溝墓」からは、指導者らしき人物の存在が見えてきます。その指導者の下で、縄文時代晩期から低湿地を襲う自然災害に備えるために、集落間の協力体制ができ上がっていくことも想像されます。そして、幾多の自然災害の経験は生き延びる知恵を生み、その知恵は、新しい文化の受容と環境の変化への対応にも役立ったことでしょう。弥生時代以後の四世紀に県内で最古級の「杵ヶ森古墳」（新富町）や巨大な「亀ヶ森古墳」（青津）ができたのも、集落間の協力があつたればこそと思われるからです。

問い合わせ先 町史編さん室

☎ 83-2234

ばんげの味が育てる その47 おいしい楽しい健やかライフ



坂下南幼稚園から食育3つの取り組みを紹介します。

1つは『給食』です。坂下南幼稚園では、平成23年度より給食を導入しました。友だちと一緒に同じものを味わうことで、「おいしいね」と友だちと共感しあったり、時には苦手な食べ物でも友だちが食べている様子を見て、「ちょっと食べてみようかな」と挑戦したりする姿が見られています。

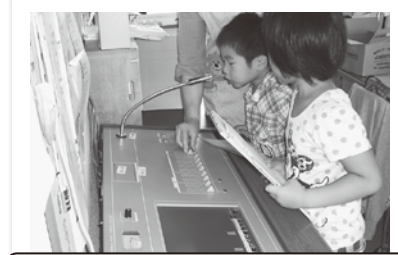
給食では、子ども達が給食当番になり、配膳から片付けまでを行っています。「このくらい?」「もう少しふやして」自分が食べられる量を聞いたり伝え合ったりしながら、配膳を行っています。また、毎日、年長さんが放送当番を担当し、給食のメニューを発表しています。



みんなで協力しながら給食当番



おかわりだって出来るよ!



放送当番でメニュー発表しています

2つ目は『栽培活動』です。園内にある花壇に、ゴーヤやピーマン、ミニトマトを植え、水やり・収穫をしました。自分が食べる食材にふれることで、苦手だった物も食べられるようになるそんな子どもの様子から、普段の生活でも積極的に食材とふれあう機会を設けてきました。また、収穫した野菜を使って、野菜スタンプを楽しみました。



いっぱい水を飲んで、大きくなってね。



あんなところに、実がなってるよ!



ゴーヤってこんな形なんだ!

最後は、『遊び』です。子ども達は、毎日いろいろな遊びをしています。お寿司屋さんごっこをした時には、実際にお寿司屋さんを見学し、自分達でイメージを膨らませながら、いろいろな材料を選んでお寿司を一つ一つ作り上げていく姿が見られました。また、作ったものを友だちといっしょに楽しんだり共感しあったりしながら食べる姿も見られました。

遊びを通して、『食べる事のたのしさ』、『食べる事の喜び』を感じて欲しいと思います。



みんなで
チョコチョコクッキング中



いろいろなお寿司が
あるんだね~



みんなで食べる手作りお寿司は
おいしいね

★11月19日は食イクの日・家庭料理の日です★



中央公民館 図書室だより Vol.41

中央公民館図書室 TEL 83-3010 (定休日:毎月第2火曜日)



立冬を過ぎ、暦のうえではもう冬です。11月は霜が降りることから霜月とも呼ばれています。何かと忙しい時期ではありますが、冬支度の合間に手を休めて、ゆっくり読書の時間を作ってみてはいかがでしょうか？

◆ おすすめの新作本 ◆

絵本	『あいすることあいされること』
	宮西達也 作 ポプラ社
ずっと、ひとりでいいとおもっていたよ。きみとであうまでは…。せつなくも、心があたたかくなる絵本。「ティラノサウルスシリーズ」の12巻目のお話です。	

小説	『11/22/63；上』
	スティーヴン・キング 著 白石朗 訳 文藝春秋
知人から1958年に通じるタイムトンネルの存在を教えられた高校教師が、過去へ旅してケネディ暗殺阻止を目論む物語。4つの文学賞にノミネートされ、2冠に輝いた大作の上巻です。	

○10月8日に県立図書館の移動図書館『あづま号』が来館しました。新しく借受けた図書の貸出を開始しましたのでどうぞご利用下さい。

◆ 「あづま号」図書おすすめの本 ◆

児童書	『けんかにかんぱい！』
	宮川ひろ 作 小泉るみ子 絵 童心社
けんかをして言いたいことをしっかり言い合うことで、友達がどんな風に考えたり感じたりしているかを知ることができるはず。それで仲良しになるって大切なことです。	

小説	『折れた竜骨；上・下』(創元推理文庫)
	米澤穂信 著 東京創元社
12世紀末のヨーロッパを舞台にした、剣と魔術のファンタジーな世界観のある、新しいタイプのミステリです。第64回日本推理作家協会賞受賞作の文庫化。	

○ブックスタート実施のお知らせ

11月28日(木)に、10か月児健診のお子さんを対象に、絵本を手渡す『ブックスタート』を実施します。

実施場所：健康管理センター 実施時間：10か月児健診時

